

株主通信

2023年12月期第2四半期業績のご報告
(2023年1月1日～2023年6月30日)

株式会社 **日本マイクロニクス**

証券コード：6871

To Our Shareholders

株主・投資家の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

📍 市場について

第53期（2023年1月1日から2023年12月31日）第2四半期連結累計期間（以下上期）の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い、各国の経済活動に回復の兆しが見られたものの、ウクライナ紛争の長期化による地政学的リスクの高まりや欧米の政策金利の引き上げを背景に経済・金融が不安定となるなど、明暗相半ばする情勢で推移しました。

当社が軸足を置く半導体市場では、スマートフォンをはじめとする民生機器の需要回復が遅れていることに加え、データセンター投資も減速したことから、全体として低調な状況が続きました。車載用アナログ半導体やマイコン、センサーの市況は堅調に推移しましたが、メモリ半導体の価格下落に伴う市場縮小の影響が大きく、半導体市場全体では前年度よりも減速しました。

一方、FPD市場については、テレビ、パソコンともに需要の減少が続いており、液晶パネルの需要回復にはいましばらくの時間を要するものと見ています。

📍 業績について

第53期上期は、半導体やFPDの市況悪化を受け、より慎重な舵取りが求められる厳しい半期となりました。プローブカード事業においては、ノンメモリ製品が比較的好調に推移したものの、主力であるメモリ向けプローブカードの需要が減速したことから、上期のセグメント業績は前年同期比で減収減益となりました。TE事業においても、FPD市場の需要減速の影響を受け、売上・利益ともに大幅に減少しました。当期はまた、将来を見据えて積極的な開発を推進したことから、研究開発費を中心に販売費および一般管理費が前年同期比で増加しました。

この結果、第53期上期の連結業績は、売上高16,985百万円（前年同期比13.2%減）、営業利益1,750百万円（前年同期比57.3%減）、経常利益1,569百万円（前年同期比64.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,143百万円（前年同期比60.2%減）となりました。

代表取締役社長 **長谷川 正義**

新中期経営計画『FV26』(2024年度-2026年度)

当社グループの新中期経営計画の重点施策、経営指標をステークホルダーの皆さまにお知らせいたします。

重点施策

- MJC Future Visionを踏まえ、2026年を最終年度とし、市場成長率を上回る成長を目指します。
- 積極的に設備投資・研究開発へ投資することで、お客様のニーズに応じて共に成長します。
- サステナビリティへの取り組み、DX推進を成長の機会と捉え、人財育成と組織力を強化し推進します。
- 電子計測技術を通して、更なる企業価値の向上と社会貢献に努めます。

プローブカード事業

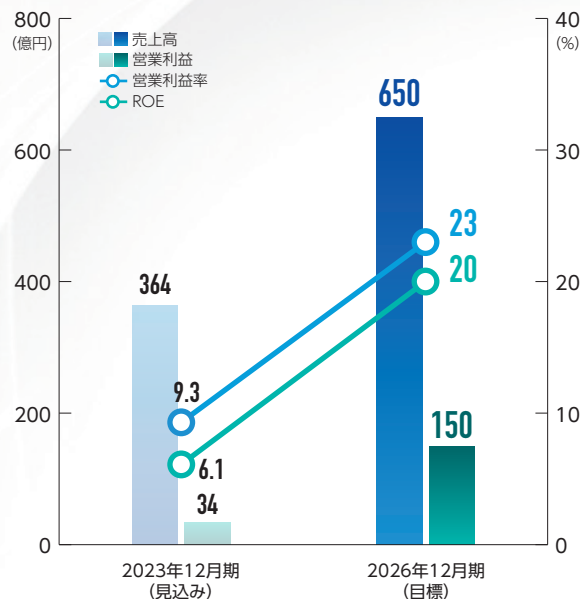
- メモリ向けプローブカードは生産能力強化と新技術開発で圧倒的なシェアNo.1を維持します。
- ノンメモリ向けプローブカードはMEMSタイプの新製品投入によりシェア拡大を目指します。
- お客様へのサポートを充実させ、より一層のサービスを充実させるとともに、新たなお客様とのリレーションを築いていきます。

TE事業

- コンタクトビジネスの成長により安定収益源を目指します。
- 半導体テスト向けの新製品で、新たな価値を創造し成長を目指します。
- お客様へのサービスをより充実させることで、フィールドサポート(ポストセールス)を第三の収入源とします。

	投資計画 (FY2023~FY2026)	'19~'22年比較
設備投資額	300 億円	2.4 倍
研究開発費	200 億円	1.3 倍
総額	500 億円	1.8 倍

経営指標 (最終年度FY2026)



※1. 前提条件: プローブカード市場が年平均成長率('24-'26)7%で成長した場合
※2. 前提としてUSD:130円/ドル



2024年1月に始動する 新中期経営計画『FV26』のもと、 市場におけるプレゼンスの さらなる拡大を追求します

Q 第53期上期の連結業績とMJCグループの 取り組みをどのように捉えていますか。

A 上期の事業環境は厳しい状況で推移しました。半導体の市況悪化、とくにデータセンター需要の減速を受けてメモリ向けプローブカードの売上が伸び悩んだほか、FPD市場の低迷に伴ってプローブユニットの需要も減少基調を辿りました。この結果、上期の連結業績は前年同期比で減収減益となりました。

一方で経営・事業面では大きな成果を残すことができました。2023年3月にはCSR経営の深化をめざして「サステナビリティ推進室」を設置し、8月には、2024年度からの3年間を対象とする新たな中期経営計画『FV26』を公表し、当社グループの中長期の成長戦略と計画推進の要となる重点施策をステークホルダーの皆さまにお伝えしています。さらに、9月1日には、当社ノンメモリプローブカード事業の中核製品のひとつである垂直型MEMSプローブカード「MEMS-V」の販売を開始しました。

厳しい業績となった上期ですが、半導体市場の回復を見据えた「種まき」をしっかりと行うことができた半期だったと総括しています。

Q 新中期経営計画『FV26』の基本方針と 定量目標を教えてください。

A 当社グループは2017年、長期的にめざす姿を明文化した『MJC Future Vision』を策定し、その実現に向けた取り組みを進めてきました。今回、その成果と課題を踏まえて、2026年を最終年度とする新中期経営計画『FV26』を策定・公表しました。

製品戦略に関しては、車載向けをメインターゲットとした「MEMS-V」や「MEMS-SP」の積極展開を通じてノンメモリ分野のシェア拡大を図っていくとともに、当社が卓越した競争力を保持しているメモリ向けでトップサプライヤーの地位をより盤石なものにしていきます。プローブカード全体では、FV26期間中に市場シェアを高め、2027年以降に業界トップの地位を射程に捉えていきたいと考えています。またTE事業に関しては、コンタクトビジネスの成長により安定した収益を確保すると同時に、新製品による成長を目指していきます。

定量面については、2026年度の売上高650億円、営業利益150億円、営業利益率23%、ROE20%を目標に設定しました。いずれも容易に達成できる数字ではありません。しかし、複数の調査機関の予測によると、世界

の半導体市場は2024年以降、堅調な成長が見込まれています。積極投資を通じた生産能力の拡充、そして市場ニーズに即応する製品の開発と安定供給により、これらの数値目標を達成したいと考えています。

Q 中計目標達成のカギとなる設備投資、 研究開発投資についてご説明をお願いします。

A 当社グループでは、2023年から2026年の4年間に、総額500億円の投資を計画しています。これは2019年から2022年の1.8倍に相当する金額で、その約8割を当社の機軸製品であるプローブカードに振り向けていく方針です。

当社はこれまで生産能力の拡充に継続的に取り組んできましたが、市場が大きく伸長している時期には受注を取りこぼすケースも散見されました。市場環境の変化、なかでも旺盛な需要に対応する安定的な供給体制を確立することは、『MJC Future Vision』の理念実現に向けて不可欠の取り組みだと認識しています。

進行中の具体的な案件としては、アドバンストタイプのプローブカードを手掛ける青森工場の新棟建設が2025年度の稼働開始に向けて順調に進捗しています。これにより、現青森工場を含む建築面積は従来比で2.3倍となり、市場の動向を見ながら順次、生産ラインを導入していく計画です。海外では韓国の100%子会社MEKのプローブカード新工場が2023年9月より稼働を開始しています。

大切なことは、お客さまの設備投資計画も含めた中長期の市場動向をしっかりと展望・分析した上で、そこで求められる新たな製品を開発し、タイムリーに提供していくこと。そして、的確な設備投資を通じて、需要の変化に即応できる機動的な供給体制を構築していくことです。私たちは今後も、MJCグループの未来を支えていく事業基盤の整備にグループの総力を挙げて取り組んでいきます。

Q 第53期下期の経営方針と 主要な取り組みをご紹介ください。

A 半導体産業は2023年度の後半から復調の動きが本格化する見通しです。拡大する需要をしっかりと取り込みつつ、早期の業績回復をめざしていきます。また、経営体制の高度化と事業の効率化にも積極的に取り組んでまいります。さらに、サステナビリティを巡る課題への取り組みを重視し、生産活動における環境負荷の低減や省エネルギーに努めると同時に、当社の将来を担う人材の育成と活用に力を注いでいく方針です。気候変動への取り組みについては、2023年度内に気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への対応を進める計画です。

わが国の労働人口が減少しつつあるなか、当社が新中期経営計画FV26で掲げた高い営業利益率を達成するためには、DXによる生産システムの自動化・省力化の取り組みも欠かせません。社員がDXに関する提案を自由に発信できる社内サイトの活用を通してDXの取り組みを推進しており、今後も経営と事業の一層の効率化を図っていきます。

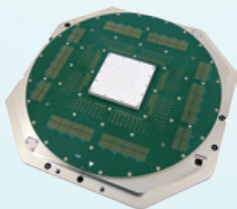
Q 最後に、株主の皆さまに メッセージをお願いします

A 当社グループはこれまで、独自の総合管理システムQDCCSS*を競争優位の源泉として着実な発展を続けてきました。これもひとえに株主の皆さまのご支援の賜と深く感謝申し上げます。上期の経営成績はやや不本意な結果となりましたが、継続的な成長を通じて企業価値、株主価値の最大化を追求するという当社の姿勢に変わりはありません。引き続き、新たな市場要求に対する研究開発へ力を注ぐと共に、戦略的な投資活動によって業容の拡大と収益力の強化を図り、その成果を株主の皆さまと分かち合いたいと考えています。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Topics
01ロジック半導体向けプローブカード
「MEMS-V」の販売を開始しました

2023年9月1日より、車載を中心としたロジック半導体向け垂直型MEMSプローブカード「MEMS-V」の販売を開始しました。MEMS-Vには、メモリ向けで実績のある「U-Probe」と同じ製造技術を用いた新型プローブを使用しています。

ロジック半導体の市場成長が続くなか、MEMSタイプの新製品投入により市場シェアの拡大を目指します。また、車載半導体以外のロジック市場攻略に向けた研究開発投資も推進していきます。

Topics
03

平川ねぶたまつりに参加しました！

青森工場・青森松崎工場のある青森県平川市では、毎年8月2日・3日に「平川ねぶたまつり」が開催されます。2020年・2021年はコロナ禍でお祭りが中止だったこともあり、当社としては4年ぶりの参加となりました。

平川ねぶたは扇型の形状が特徴で、運行団体ごとに華やかなお囃子や踊りの演出が行われます。MJCのねぶたは、市内屈指の大きさの八尺太鼓と勇壮な扇ねぶたがともに回転する迫力



満点のパフォーマンスが見どころです。社員が力を合わせて運行し、地域の皆さまとお祭りを盛り上げました。

Topics
02

サステナビリティへの取り組み

当社は2023年3月30日付で「サステナビリティ推進室」及び、ガバナンス体制の確立に向け、取締役会の諮問機関として「サステナビリティ諮問委員会」を設置しました。今後、環境問題などの社会課題への取り組みと、持続可能な企業価値向上を両立するため、人的資本の活用を重視するなど、新たな組織を通して、サステナビリティ活動を推進していきます。

Topics
04

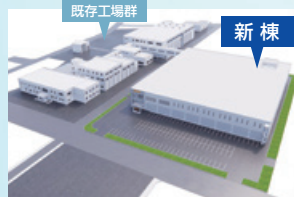
新工場建設進捗

韓国現地法人MEK Co.,Ltd.では新工場の建屋が完成し、2023年9月より順次稼働を開始しております。

青森工場の新棟建設に関しては、2023年7月23日に起工式を執り行いました。起工式に当たっての社長コメントを一部ご紹介いたします。

「半導体は、現代社会において欠かせない存在であり、今後も需要の拡大が期待されます。新棟建設は、当社の更なる成長に向けた戦略の一環であり、重要なステップです。供給能力を増強することで、お客様である半導体メーカーのビジネスをサポートし、ともに成長して行きたいと考えております」

青森新棟は2025年第1四半期より順次稼働を開始する予定となっており、FV26の計画達成において非常に重要な施策となります。



青森工場 新棟



MEK 新工場

今期より、株主通信の発行を第2四半期および第4四半期の年2回に変更しております。年2回の発行とすることで、事業動向に加え、当社の様々な取り組み、活動のご紹介など、より一層の誌面充実を図ってまいります。今後も、株主の皆さまとのコミュニケーションを重視し、当社へのご理解を深めていただける情報発信に努めてまいります。

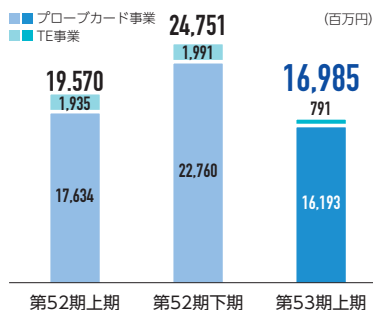
Financial Highlight

財務ハイライト<第2四半期>

売上高

16,985 百万円

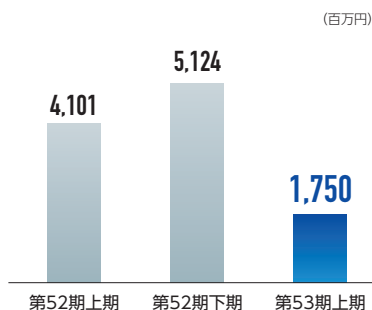
前年同期比 13.2%減



営業利益

1,750 百万円

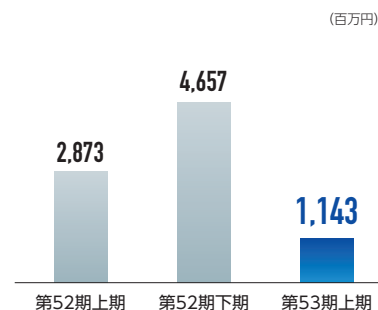
前年同期比 57.3%減



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

1,143 百万円

前年同期比 60.2%減



*各四半期の実績は、百万円以下切り捨てで表記しております。

Earnings Forecast

業績予想 (2023年8月10日現在)

	第53期 第3四半期累計予想	第53期累計(通期)予想
売上高	26,600 百万円	36,400 百万円
営業利益	2,400 百万円	3,400 百万円
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	1,400 百万円	2,300 百万円

About Stocks

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡 先 東京都府中市日鋼町1-1
 電話0120-232-711 (通話料無料)
 郵送 先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 **日本マイクロニクス**

〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
<https://www.mjc.co.jp/>

